播磨地域における広域公園と近隣公園の立地と利用動向

福井　奈菜

キーワード:子どもの遊び場，子どもの養育，地域計画，兵庫県，福崎町

1. はじめに

子どもの育つ環境が変化している。その変化とは，少子化により近所で友だちと遊ぶことができなくなったこと，地域の都市化により自然を身近に感じることができなくなったこと，核家族化により多世代の大人とかかわることがなくなったこと，以前は子どもをともに育てていた地域コミュニティのきずなが希薄になったこと，などがあげられる。子どもは，地域から孤立して育ち，友だちや周りの人とコミュニーケーションをとらず，実際の体験も少ないなど，多くの問題を抱えて育つ。その結果，中には，おかしくなっている子どももいるのではないだろうか。いじめ，ひきこもり，自殺，人を平気で殺してしまうこともある。

遊び場と遊ぶ友だちが減少している今，子どもたちがのびのびと安心して遊べる遊び場の確保に，大人は積極的にかかわっていかなければいけない。子どもの遊び場としての公園が果たす役割には，次の７点をあげることができる。

①自然を感じられる場所
②同年齢，異年齢の友だちと出会う場所
③多様な体験の場
④身近な場所にある行きやすい場所
⑤子どものための空間
⑥子どもが地域の人に出会う場
⑦母親の交流の場

家や家の近くでこういった体験ができなくなったぶん，公園の果たす役割が大きくなっているのではないだろうか。

とくに⑦については，近所に子どもがいないということは，子どもを育てる親にも，同じ子育ての悩みを相談する相手がいないことを意味する。今，子どもの虐待事件などがよく報道されている。核家族化が進み，母親が子育ての悩みを打ち明けられる相談相手がいなかったからではないだろうか。公園は，母親たちの交流の場にもなっている。

本研究では，子どもの遊び場としての公園を対象とする。このとき，次の３つの視点が重要である。

①観光・レクリエーション施設としての広域公園
②子どもの日常的な遊び場としての近隣公園
③地域の土地利用計画における公園の役割

これらを踏まえて，本研究では，まず，現代の公園の制度と実態を理解する。次に，兵庫県全域の広域公園について，調査報告，利用案内，統計資料などをまとめて，その立地と利用動向を明らかにする。播磨地域の広域公園については，実地調査を中心に詳しく調査する。そして，すぐに行ける身近な遊び場として，福崎町の近隣公園をとりあげる。そのとき，実地調査に加えて，町役場と利用者に対し聞き取りを実施する。最後に，以上の調査をまとめて，地域の公園の現状を踏まえながら，将来のための理想の公園を提案したい。

2. 兵庫県の広域公園

兵庫県内の広域公園として，89 の公園をとりあげ，それらの立地と利用動向をまとめた。広域公園は，観光・レクリエーション施設としての機能をもつので，少し値段の安い遊園地のようだ。観光資源の少ない市町では，それぞれの特色を生かし，公園を観光施設として整備，活用しようという動きがある。丸一日遊べるように，公園内にレストラン，宿泊施設，温泉などを兼ね備えた複合施設が多い。

図１は，日本全国の公園面積の推移を示したものである。公園の面積は五か年計画が始まった 1972（昭和 47）年以降，急激に増加している。図２は，兵庫県内の広域公園の開設年代で

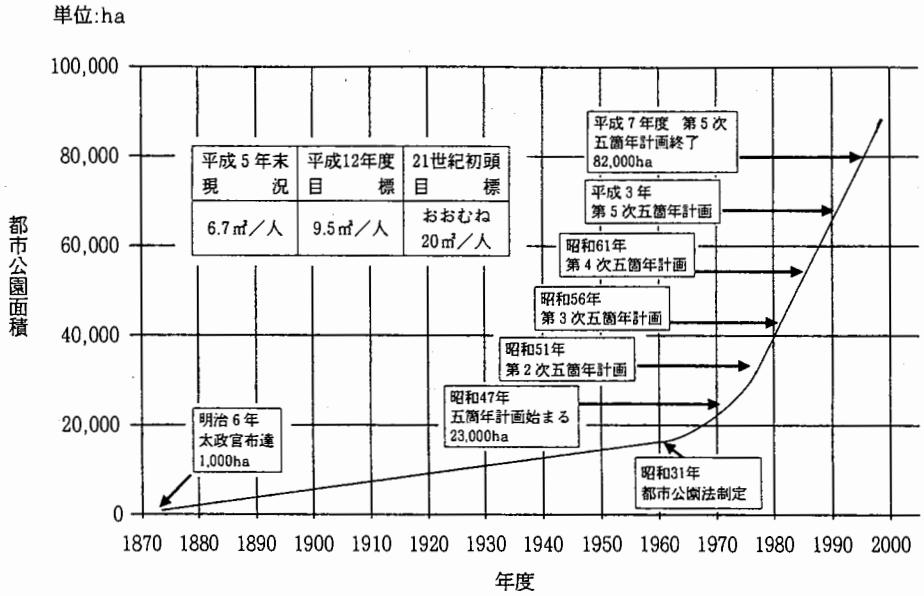

図1　日本の都市公園整備面積の推移　出所：公園緑地管理財団（2001，p.19）より

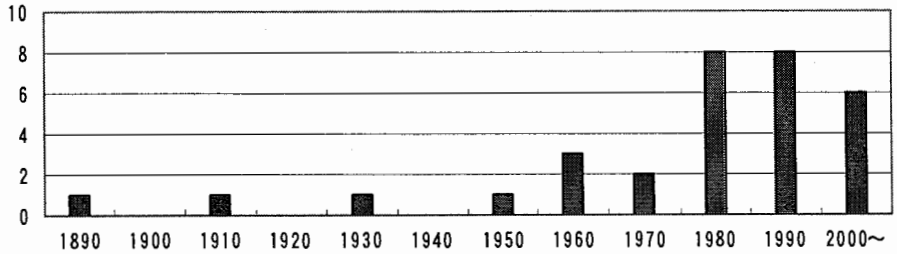

図2　兵庫県の広域公園の開設年代　出所：本人作成

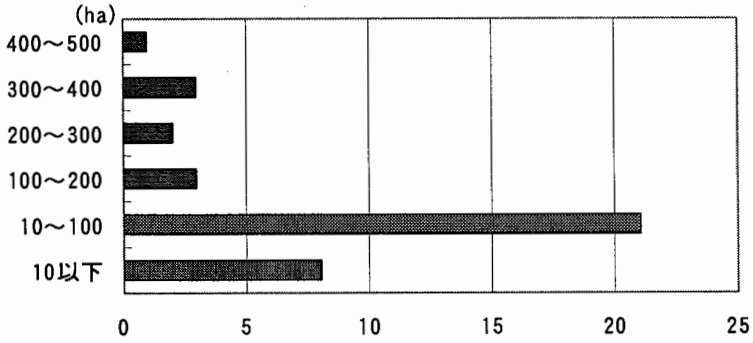

図3 兵庫県の広域公園の面積の分布　出所：本人作成

ある。兵庫県の場合も，日本全国と歩調を合わせて，最近 20～30 年の間に公園が急速に整備されたことが分かる。地域において公園の果たす役割が大きくなっているのである。

図３は，兵庫県内の広域公園の面積の分布をみたものである。10～100ha のものが一番多く，このくらいの広さがあれば，いろいろな種類の活動ができ，また数多くの施設を作ることができるようだ。最大の有馬富士公園（三田市）になると 400 ha（２km 四方）以上ある。

兵庫県内の広域公園にどんな施設があるのか，分類してみた（表１）。遊具はどこにも大抵おいてあり，中でもアスレチックが多くみられた。テーマ活動施設では，野島断層保存館や但馬牛博物館など，その地域にしかないものがある。子どもたちに自然体験の機会が少ないことへの対策として，兵庫県のＣＳＲ（Culture,Sports,Recreation）事業で造られた公園には，水田，東屋，炭焼き小屋などが用意されている。

表1　子どもの遊びや多様な体験に対応した具体的な整備の内容

	分類	内容
屋外施設	広場	芝生広場、冒険広場、魔法の広場、学びの広場
	水辺	ジャブジャブ池、ウォーターランド、渓流釣り、磯浜、池、親水広場
	植物	水田、バラ園、花壇、実のなる木(りんご、どんぐりなど)
	生物生息空間	生態園、野鳥観察小屋、カブトムシドーム、昆虫館、しいたけ館
	遊具	アスレチック、列車
	野外活動施設	キャンプ場、デイキャンプ場(炊事施設)、バーベキュー広場
	創作施設	クラフト館、創作館、森のクラフト館
	屋外体験学習施設	体験工房、牛乳工房、炭焼き小屋
	スポーツ施設	プール、ストリートバスケット場、サッカーのゴールボード ローラースケート場、マウンテンバイクコース、ゴーカート
	飼育施設	小鳥の家、動物ふれあい広場、ポニーリンク
屋内施設	総合活動拠点	児童館、子どものハウス、ちびっ子丸太小屋、東屋
	テーマ活動施設	温室、生態園、カブトムシわくわく館、野島断層保存館 コアラ館、経緯度地球科学館、但馬牛博物館
	宿泊施設	宿泊施設
その他の施設		温泉、レストラン、野外ステージ

出所:本人作成

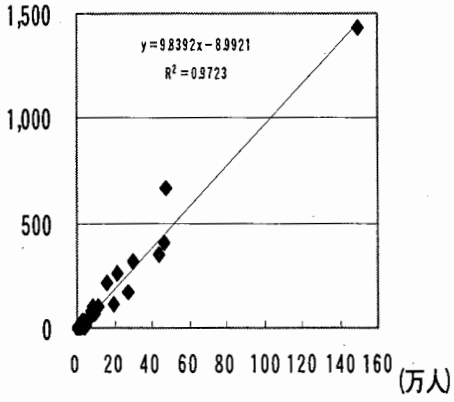

図4 兵庫県市町の人口と都市公園の数
出所: 兵庫県データランド
webページより 作成

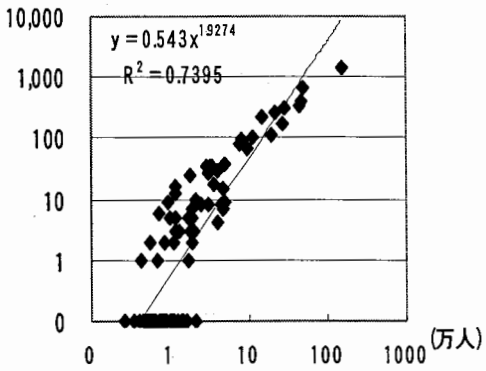

図5 兵庫県市町の人口と都市公園の数
(両対数)
出所: 兵庫県データランド
webページより 作成

広域公園は兵庫県下のどの地域に多いのだろうか。兵庫県各市町の人口と都市公園の数との関係を示した図４～５を見ると，居住人口の多いところに公園も多いことが分かる。要するに「田舎」よりも「都会」に公園は多いのである。居住人口が多いほど公園を利用する人数も多くなることと，都市化にともない自然に触れることのできる場所が少なくなったことが，都市とその近郊に多くの公園が造られるようになった要因と考えられる。

居住人口のうち，とくに年少人口の多い地域ほど，公園が多く立地している。今，少子化で子どもが少なく，高齢化社会で老年人口が多くなっている。これら両面への対策のうち，兵庫県全体では児童福祉よりも老人福祉に力を入れる傾向にある。公園整備を含む，都市計画は地域の現状と将来の予測に基づいて立案されるので，将来年少人口が増えると予測される地域に公園が多く造られている。

公園の管理，運営はどこが担っているのか調べてみると，市町の自治体が担当していることが多かった。公園の数が増えた今，公園をどのように管理していくかということが大きな課題となっている。公園の利用者である地域住民が管理，運営に参加するという事例が増えている。

兵庫県の行っている CSR 事業の特徴は，地元住民と都市住民とで構成される「運営協議会」が主体となって運営にあたり，ボランティアで自主的に取り組むことである。加東郡社町のやしろの森公園の場合，団体代表，地域住民委員，運営スタッフなどから構成される「やしろの森運営協議会」を中心としながら，20 数名の運営スタッフや 60 数名の活動スタッフと呼ばれるボランティアの人々の手で，多彩なプログラムが用意されている。ボランティアの活動が重要となるため，開園前から先行保全活動といわれる，除間伐や間伐材を利用したベンチ作りなど，準備してきたという。

まだ数は少ないが，地域住民が参加した公園づくりが進められていることがよく分かる。やしろの森公園をはじめとして，播磨地域の公園には，農村部にあって自然体験ができるような公園が多い。都市部には自然体験を望む人が多い。自然と触れあいたいと思う都市の住民と，地域を活性化させたい農村の住民との交流の場として，今後の展開が期待される。

3. 福崎町の近隣公園

子どもの遊び場となれば，日常的に利用しやすい，自転車，徒歩などで行くことのできる住区基幹公園（街区公園，近隣公園，地区公園）が大きな役割を果たす。近所に利用しやすい公園があると，子どもや親，地域住民が気軽に行きやすい。そこで，私の住む神崎郡福崎町の住区基幹公園がどうなっているか調べてみた。まず，福崎町の公園緑地の整備方針は，次のように記されている。

公園緑地は，町民の日常圏的レクリエーション活動に対処する機能，都市の風致景観を形成する機能とともに兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）によりあらためて認識された災害の防止あるいは災害時における避難路，避難地としての機能を有している。また，沿道及び周囲の住宅から見通しのきく公園配置，公園施設配置とすることによる防犯面の配慮とともに，すべての人々に対応したバリアフリー化を図る。これらをもとに，公園・緑地の配置は，住区，分断要素及び誘致距離を考慮して適正に配置する（福崎町都市計画課，2000）。

住宅地図や聞き取り，実地調査によって，福崎町全域の公園をピックアップしたところ，福崎町には大小合わせて 39 の，誰もが利用できる公園があった。予想以上に多い数である。しかし，福崎町の web ページにある総合計画のアンケート結果を見ると，公園，緑地の確保と整備には 39.4％の人が，また，児童公園等の子どもの遊び場については 41.5％もの人が不満を抱いている。半数近くの住民は公園が十分に整備されていないと思っているのである。福崎町には 39 もの公園があるのに，なぜなのだろうか。次のような理由が考えられる。

①あっても使えない公園が多い。― 古く，管理がしっかりとなされていないものが多い。遊具なども使えないように縛りつけてあるものもあり，安心して遊べない。

②狭い。― 近隣公園，地区公園に指定されている公園でも，面積の足りない公園がある。ほとんどの公園が 1 ha 以下，小さいものでは 0.01ha（10m 四方）ほどしかない。あまり

に狭い公園では，人が集まってくるようなスペースがない。

③知らない。― 公園があっても知らない人が多いので、利用もされない。

④人の使っていない公園は怖い。― 子どもが外で遊ぶことが安全ではなくなってきている今，積極的に利用されていない公園というのは危険である。大人も利用し，常に人の目があり，また，見通しがよいことが公園には大切である。

遊ぶ人がいないと公園は荒れる。荒れると人は寄りつかない。人が寄りつかなくなると，公園にある遊具などは錆つき，遊ぶことのできないものになる。こういった退行過程が，公園には起きているようだ。

福崎町には，草が生い茂り，遊具はぼろぼろで，とても使えるものではない公園も多い。日曜日の午前中に10以上の公園を回ってみたとき，遊ぶ子どもの姿が見られたのは2か所しかなかった。身近な地域で，近隣の公園を盛り立てていくような取り組みが必要である。

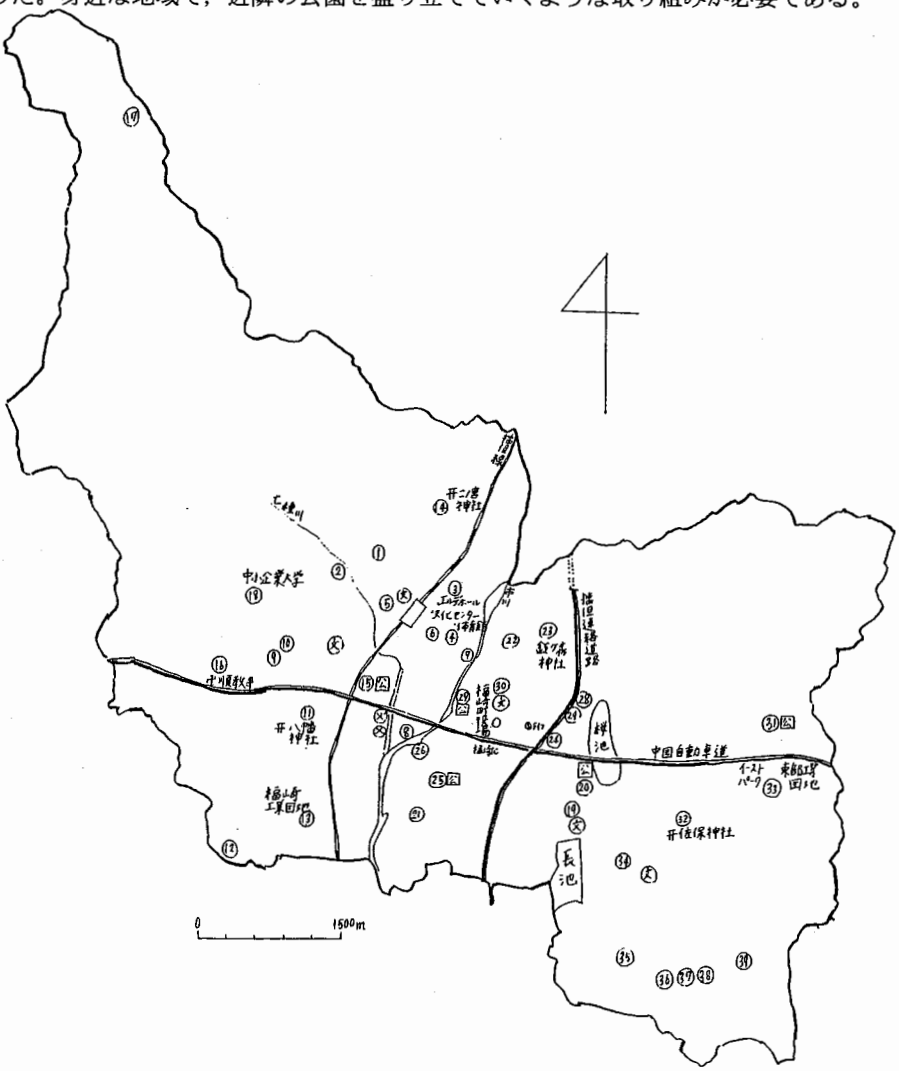

図6　福崎町の近隣公園（丸数字は，公園の位置と番号を示す。）出所：本人作成

4. おわりに

子どもを育てにくくなっている環境の中で，子どもがまっすぐに育ってくれることが，親の願いであり，地域の希望でもある。身近な地域や，日帰りで出かけることのできる範囲に，どうして利用しやすい素敵な公園が少ないのかとばかり思っていた。本研究の過程で，公園は管理の問題，予算の縮小，利用者の減少など多くの課題を抱え，その運営が難しくなっていることを痛感した。これらの解決に向けて，地域住民が公園づくりに積極的に参加している事例があった。

今後さらに，地域が公園を支えていくような利用形態や運営方法を進展させたいものである。地域の中で子どもが多様な体験ができるよう，家の中でばかり遊ばないよう，公園はますます魅力的な場となる必要がある。

参考文献

公園緑地管理財団(2001)『子どものための公園づくりガイドライン』,国土交通省都市・地域整備局公園緑地課, 187p.
TRY あんぐる(2002):『2002 年版子どもとでかける兵庫あそび場ガイド』,メイツ出版,176 p.
福崎町都市計画課(2000):『福崎町マスタープラン』, 85p.

兵庫県データランド web ページ (http://web.pref.hyogo.jp/toukei/)
福崎町役場 web ページ(http://www.town.fukusaki.hyogo.jp/)
ベネッセコーポレーション web ページ(http://www.benesse.co.jp/)

A Practical Study on the Location and Utilization of Recreational Parks and Daily-use Squares in Harima Region, Hyogo

FUKUI Nana

Key Words: play land of children, bringing up of children, regional planning, Hyogo prefecture, Fukusaki town